

別添（議事録様式）

令和4年度志木市立宗岡小学校 第3回 学校運営協議会議事録

1 開催日時 令和4年10月29日（土） 10：50～12：20

2 場 所 志木市立宗岡小学校 多目的室

3 出席者

津田 美奈	若杉 一輝	大熊 克範	鈴木 恵美
田中 直樹	田村 成彦	小木曾 久美子	

【事務局 吉澤 めぐみ 記録 吉澤 めぐみ】（計 6 名）

4 協議内容

(1) 学校経営方針について

時間の都合上、割愛

(2) 小中一貫教育について

【説明】

志木市教育委員会より小中一貫基本方針について説明

小中一貫とは、新しい制度になるわけではなく、小学校と中学校の教員が互いの学校種の垣根を取り除き、子供たちを分け隔て無く育てていこうというものである。9年間を通して育てていくことである。中学校での学習の躓きは、中学校から始まったのではなく、その前段階である小学校時代にあることが多い。連続する1年ごとの積み重ねの中で取りこぼさない教育が大切である。

そこで、志木市は令和7年から小中一貫校の実施を目指している。地域の実態を踏まえて、小中一貫教育の意義を十分に叶えられるものにしたいと考えている。

小中一貫を進めるにあたり、志木市の小中一貫教育推進委員会を設けている。

さらに義務教育学校と小中一貫校のちがいは資料を参考にする。

【質疑応答】

(田村) 小中一貫については保護者も理解ができていない。保護者に周知することはどうなっているのか。

また、中学校自由選択制と小中一貫との兼ね合いはどうなっているのか。

(教育委員会) 基本的には今までの小学校、中学校と変わらない。小中の連携が不十分だったところをもっと連携を充実させようということである。小1から中3まで9年間を見据えて子供たちの育成を行う。

12月以降、保護者・地域への説明会を設ける予定。これから順番に三校合同コミュニティスクール、保護者・地域の順で説明を行う計画である。

(田中) 基本方針にある小中一貫教育の意義については、今までも意識してきたことだろう。保護者にとっては、今まで通りでも一貫教育でもある程度はどちらでもよいのではないのか。それよりも、具体的に何をするのかを明確にしてほしい。

(教育委員会) 小中一貫となってもカリキュラムは教育指導要領をもとに全国统一なので、学習内容自体は変わらない。宗岡パトロールや田んぼ作りなど今まで

大切にしてきたことを継続するだけである。宗岡パトロールや合同訓練など地域の特色を活かしながら中学校区ごとに決めて進めてもらう。3校が連携できるように教委育員会も応援するし、学校も一新する機会である。自由選択制についてだが、学期途中の転入生も新しい学校に慣れてくる。自由選択制によって、ちがう中学校区に通学することになっても、次第にその学校に慣れるのではないか。だから、自由選択制は継続する。人間関係などの悩みから別の中学校へ進学する方が良いこともあるので、自由選択制をなくすことはない。

(田中) 小学校間では、宗小と宗二中に近い宗三小で格差がないのか。

(教育委員会) 中学校の先生が小学校の音楽の時間に限定的に行くとか、授業時間だけではなく、部活紹介なども連携である。今でも、中学校の教員が小学校へ定期的に行っている。そのほか、美術の先生が小学校に掲示物を作りに行くとか、音楽の先生が演奏に行くとか無理なく行えるようにする。教員数の問題で、小中一貫のために新たな人材が配置されることはないので、交流できる良い試みを積み重ねていく。

(田中) 教師への負担がないのか。

(教育委員会) 教科担任制などを先行して、小中一貫教育を実施しているところでは、以前より負担が軽減されたと聞いている。

(田村) 昨年度は、宗小の児童が学区外の宗岡中学校に三分の一が行ってしまい、宗岡第二中学校の男女のバランスが崩れてしまっている。

(田中) 宗二中に子供が行きたいと思わせることが大切である。生徒達の同士の行き来をさせることも必要なのではないか。

コロナ対策は緩和をしてもよいのではないか。黙食とかもう一度見直す必要があるのではないか。今後について学校から説明があってもよいのではないか。

(教育委員会) コロナ感染により子供が死に至ってしまうことがある。慎重にならざるを得ない状況である。

(大熊) 宗小は昔中学校と同じ敷地にあった。小学生同士がけんかしていると、中学生が止めてくれていた。

(津田) 宗小がコミュニティスクールを立ち上げたときは、宗岡パトロールや田んぼ作りなどの取組を行っていた。ところが、そのころの取組を知っている教員が少なくなってしまった。そのころの取組が小中一貫だったかというところではない。ただそのころは人事的な配慮があった。今回宗二中学区は総合的な学習から始めていくということだが、教員の人事的配慮はあるのか。

(教育委員会) 先生方には説明をしている。

(津田) 本当であれば幼保小中一貫であるとよい。

(教育委員会) 幼保と連携することは大切である。平成31年から幼保小の連携を進めるよう会議を開いている。もともと幼保小は交流を行っていた。コロナ禍でできなくなってしまった。地域の理解を得ながら幼保小が協力してもっと連携を図り市内の発信力となれるよう地域の幼稚園保育園に声をかけて、いく。コロナの前の状態に戻るようであればよい。

(鈴木) 幼稚園、保育園から学力の低下がみられる。登園拒否をしているお子さん

もいる。地域で守っていけるといい。

(若杉) 教職員にとって小中一貫が目的ではなく、子供たちの成長のための手段になるように現場に寄り添った取組であるとよい。

小中一貫についてコーディネートを依頼している「コアネット」の協力を得ながら市民に発信していくことが必要である。

(教育委員会) 三校合同のコミュニティスクールで認めていただきながら学校とともに尽力する。

(3) 学校関係者評価について

大方賛成であるが、コロナ対策に関する項目はなくしてもよいのではないか。教職員でも話し合っ、必要がなければ今年度はなくともよいのではないか。

(4) 150周年記念行事について

150周年の準備積み立てもある。近年、リーフレットのみの学校も多い。志木市内では周年行事の先陣を切ることとなるので、予算の範囲内でPTAの方々と考えながら進めていく。

(5) 情報提供

省略。

5 次回の開催日程

第4回学校運営協議会

日時 令和5年 1月25日(水) 10:30

会場 宗岡小学校 多目的室

第5回学校運営協議会

日時 令和5年 3月 3日(金) 13:30

会場 宗岡小学校 多目的室